サポセン mail No.206.　2022. 3. ３１発行

＜発行元＞　特定非営利活動法人　緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町２-21-684-101　ＴＥＬ＆ＦＡＸ　０４３－３７７－８４９０
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konjiki.jp/

こんな時だからこそ遊ぶ大切さを！

２月２７日（日）は誉田二丁目自治会館にて「アフタフバーバンと遊ぼう！」を開催しました。「アフタフバーバンに初めて参加する人？」と聞くと誰も手を挙げません。みんなアフタフバーバンと遊んだことのある子たちばかりです。今年は佐藤律子さん（りっちゃん）と金子ざんさん（ざんさん）が来てくれました。

さっそく生年月日順に大急ぎで並ぶゲームなどから遊び始めます。背の高さ順に並ぶゲームでは最後尾にざんさんと咲ちゃんパパが並び、「あ～！兄弟みたい！」とみんなから歓声が上がりました。本当に雰囲気までそっくりなお二人ですね。

次はりっちゃんが出題する「緑色のもの～！」「ざらざらしているもの～！」「つるつるしているもの～！」などのお題を大急ぎで見つけてそれを触るゲームです。「つるつるしているもの～！」の声を聞き私は思わずざんさんの頭にさわっていました。

みんなの体と心が温まってきたら今日はそんなことをして遊ぶのか二人から発表がありました。

ポケットから出てきた紙を黒板に貼っていきましたが、最初はよくわかりません。紙の順番を動かしていくうちに「しんぶんしだ！」と誰かが気付きました。子どもたちは新聞紙で遊ぶのが大好きです。初めは親子で２～３人のグループに分かれて紙面の中から三角や文字や色を探して遊びました。そのあとは親子で新聞紙の上に乗り、りっちゃんとジャンケンをして負けると紙面

をどんどん半分に折りたたんでいきます。ジャンケンに負けるとだんだん立っていられるパーツが小さくなるので大変ですが、全員最後まで立っていられました。

　次はたくさんの新聞紙をみんなの真ん中に丸く敷き詰めました。丸く置くのはみんなが殺到した時に、頭をぶつけないためです。

「今日の朝ご飯がご飯だった人！」とりっちゃんが言うと当てはまる人が、新聞紙を思いっきり高く投げ上げます。「眼鏡をかけている人！」「小学生～！」などフルーツバス

ケットのように順番にいろんなお題を言っていき、当てはまる人が新聞に突っ込み高く高く新聞を投げ上げました。驚いたのは子どもも大喜びでしたが、それ以上に大人が夢中になって盛り上がっていたことです。こんなことしたら恥ずかしいとか他の人にどう見られるかしらなんて思っている人は一人もいませんでした。大人も子どももアフタフバーバンの「あそぶ」をからだ全体で楽しんでいました。以前講演会で聞いた「しっかりアクセルを踏む体験をいっぱいした子どもでなければ、ブレーキを踏むことはできない。」というお話を思い出しました。その先生の幼稚園では朝の２０分間じゃれつき遊びやおしくらまんじゅうなどを十分にするそうです。一見あまり意味のないように見えるけど夢中になってエネルギーを全開にする時間をたくさん積み重ねていないと自分の感情をコントロールしたり抑えたりすることができる子どもにはなれない。という意味のお話でした。大人対子どもの投げ合い対決もやりましたが、子どもチームの圧勝でした。

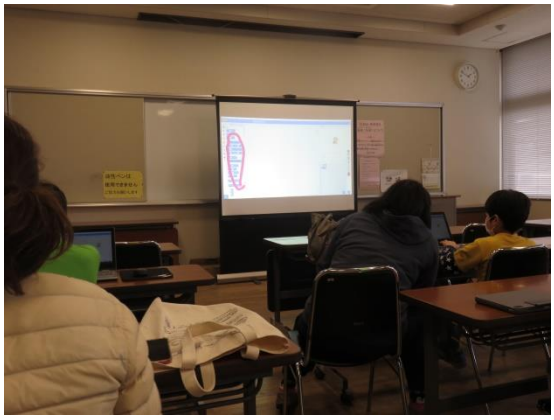
新聞投げで盛り上がった後は、「この新聞紙を使って美術館の作品を作ろう」という提案がりっちゃんからありました。こんなに興奮状態の子どもたちが静かな創作活動に移れるのか私は少々心配でしたが、子どもたちはすっと気持ちを切り替え新聞紙の作品作りに取り組みました。お題は「冬」で３チームに分かれて話し合い、作品を作りました。各チームの作品が出来上がると、全員一度部屋から出て作品のある美術館に入り作品を見学します。

作品は「風邪ひく夜に窓から見える雪山とギョーザ鍋」「クリスマスのキャンディレイ」「冬のお寿司屋さん」です。どの作品も子ども一人ひとりのアイディアや思いが込められていてほほえましいものばかりでした。コロナ禍で我慢が多い子どもたちにとって、夢中になって遊んだ本当に楽しい時間でした。

（記　安藤）

プログラミングは創造すること

３月２０日（火）は誉田公民館会議室で「プログラミングに挑戦！」を開催しました。



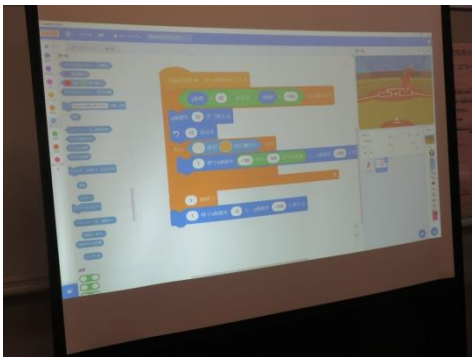
本来は２月上旬に開催予定でしたが、コロナウィルス感染拡大で学年閉鎖になる小学校・中学校、休園になる幼稚園・保育園が多くなり、この日に延期となりました。当日も学級閉鎖のため参加できなかったお子さんがいて５名のみの参加者となりました。

講師の伊藤弘一先生はあすみが丘プラザやいろいろな公民館でプログラミングのサークルや教室を開催していらして、あすみが丘プラザのサーク

ル紹介のポスターにあった電話番号に直接連絡したところ、快く指導を引き受けてくださいました。

一人一台のノートパソコンを持参したり先生からお借りしてプログラミングを基礎から教えてもらいました。参加者が少なかったので私も飛び入りで参加させていただきましたが、基本のき基もわかっていなかったのでみんなの足をだいぶ引っ張ってしまい、本当に申し訳なかったです。

多くの学校でプログラミングを授業に取り組んでいるようですが、学校によって体験は様々なので子どもの理解度には差があるようです。プログラミングに詳しい先生がいるとどんどん進度が進むそうです。こうすけくんは興味を持ちどんどん自分で研究してだいぶ腕をあげているようでした。



この日はピンポンや野球のゲームを作成しました。「音が出ないんですけど・・。」や「〇〇が見つからない・・。」など子どもたちが手を挙げて質問すると先生は一人ひとりのところに行きとても丁寧に教えてくださいました。

終了後、先生が「プログラミング」の作成は答えが一つではなく、子どもの創造性を育ててくれる。技術ではなく創造性が大切なんです。」と話しておられたのが印象的でした。また、てんかいくんはプログラミング検定の全国最年少合格者であることも教えてくれました。すごい！　（記　安藤）